様式1 # 令和5年度　山梨県立甲府昭和高等学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	学校の教育力、組織力のさらなる向上を図りながら、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成を目指す。

山梨県立甲府昭和高等学校校長　加藤　忠

本年度の重点目標	
	1　生徒の学びに向かう力を引き出しながら、甲府昭和高校Can－doリストに掲げた資質・能力の育成を図る。
	2　さわやか教育を実践し、自ら考え行動できる生徒の育成を図る。
	3　地域や関係機関と連携して、安全で安心して学べる教育環境の構築に取り組む。

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価	
4	良くできている。
3	できている。
2	あまりできていない。
1	できていない。

自　己　評　価

本年度の重点目標				年度末評価（2月20日現在）		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	①学習意欲の向上を図る。 ②知識や技能を活用して、思考、判断、表現する場面を計画的に授業に取り入れる。 ③学習評価を充実させ、評価した結果を積極的に生徒、保護者に通知する。 ④教科「情報」に関連する指導の全校態勢を確立する。	①(1)身に付ける資質能力を明確に示して授業を行う。 ①(2)ICT、1人1台端末を必要な場面で有効に活用する。	・相互授業参観、生徒授業アンケート	○各項目の取組、方策をほぼ順調に実行し、教職員はどの項目も85%以上が肯定的評価であった。 ・①(1)は生徒アンケートと25%の開きがあったが、他の方策は生徒、保護者の評価も良好であった。 ・③(1)の分析結果を共有したことで、各教科でより適切な評価に取り組むことができた。 ・④(2)を計画どおり実施し、教材の検討や外部課外実施など、具体的な取組につなげることができた。	B	○新課程での観点別評価を全学年で行うことになるので、評価方法や評価規準の工夫に特に取り組んで行く必要がある。 ○文章読解力の向上に散り組む必要がある。 ○共通テスト情報Ⅰの受験に向けて、生徒の学習を支える体制づくりが必要である。
		②(1)授業において適切な言語活動、探究活動を設定する。				
		③(1)6月、10月、3月の教育課程委員会で評価結果の分析を行う。 ③(2)評価結果についての説明を、学期末に生徒・保護者に通知する。	・(1)教育課程委員会 ・(2)通知資料 ・生徒・保護者アンケート			
		④(1)情報Ⅰの学習内容について、確認テスト及び土曜講座での指導を実施する。 (2)ワーキング・グループを年4回実施し、指導と学習の状況について点検、改善を行う。	・(1)確認テスト、模擬試験結果 ・(2)ワーキング・グループ報告、自己評価			
2	①5分前行動の定着を図る。 ②より良い学校生活について主体的に考える取り組みを行う。 ③人権教育、多様性を尊重する教育を充実させる。	①(1)5分前遅刻指導を徹底し、本遅刻数が300件以内となるようにする。 ①(2)チャイム席の指導を徹底する。	・遅刻者数の集計 ・生徒アンケート	○落ち着いた学校生活を送れるように生徒指導に取り組むとともに、生徒主体のルール作りを実現した。一方で、本遅刻数は目標を達成できなかった。 ・①について教職員、生徒、保護者とも指導の実施には概ね肯定的だが、5分前遅刻や頭髪、服装の指導には見直しを求める声もある。 ・②に関連する交通安全教室やいじめ防止LHR、講演会実施の評価は良好だが、人権や多様性尊重の教育については、生徒の評価が比較的低かった（68.8%）。	B	○遅刻も含め、時間を守る指導に、職員の共通理解のもと重点的に取り組む必要がある。 ○頭髪についてのルールづくりに主体的に取り組めるよう、支援する必要がある。 ○SNSの使用が発端となるトラブルが増え始めているので、指導を行う必要がある。
		②(1)あいさつ運動を実施する。 ②(2)スマホ使用、頭髪についてのルールづくりに主体的に取り組ませる。	・生指・保護者アンケート			
		③(1)ネットモラル講演会（1年生・5月）、いじめ防止の全校一斉LHR（7月）を実施する。	・講演会、LHRの実施と成果物			
3	①地域、保護者への情報提供を積極的に行い、連携を強化する。 ②教育相談態勢、個に応じた指導の充実を図る。 ③業務の削減と整理に組織的に取り組み、教職員各自の研修の機会を確保する。	①(1)学習評価、進路情報、感染症対策など、理解や協力、連携が必要な内容について、Classiを用いて保護者に積極的に通知する。	・Classiによる情報発信 ・生徒・保護者アンケート	○PTA行事での授業参観への参加、また強歩大会への協力保護者が非常に多く、連携を深められた。 ・①Classiを使った保護者への情報提供に努めた結果、多くの保護者が肯定的に評価してくれている。 ・②(1)SCの利用推進について、保護者の肯定的評価が昨年度比約20%増加、「わからない」は約12%減少した。 ・②特別支援、合理的配慮の指導と情報共有の体制を強化できた。 ○業務改善については道半ばであるが、積極的に研修に参加した教員が多かった。 ・③(1)は1月末現在73日でおおむね達成。 ・③(2)は生徒、教員の実状も踏まえ、全体としての取組は中止した。 ・③(3)は教育センター等の自主研修への参加が増加した。	B	○情報提供が個々に行われ、情報過多になりがちな傾向がある。業務のスリム化とも併せて検討する必要がある。 ○小中高連携が大変好評であったので、無理のない範囲で今後も取り組み、生徒のキャリア形成に役立てたい。
		②(1)スクールカウンセラーの利用推進について、生徒・保護者に定期的（毎月あるいは2か月に一度）に通知する。 ②(2)職員対象のTIC研修会を行う。	・生徒・保護者アンケート ・SC利用状況 ・TIC研修会			
		③(1)業務を整理し、20:00までの全館消灯を100日以上達成する。 ③(2)2月を「学習強化月間」とし、生徒の下校時間を18:30に設定する。 ③(3)「1人1講座以上受講」を目標に取り組む。	・時間外勤務、日直日誌 ・長時間勤務者への面接 ・ストレスチェック結果 ・研修記録			

学校関係者評価

実施日　（令和6年3月1日）

評価	意見・要望等
A	・高校時代は、先生にアドバイスをもらいながら、自分たちで問題解決できる機会が大切であり、生徒にとってはよい経験になる。主体的、探究的な学びをさらに実践してほしい。 ・時代の要請でもあるICTの活用は、現代の子供たちにとって必須のものであり、学校は積極的に取り組んでいる。また情報Iの共通テスト対策も着実に行われている。 ・アナログだからこそ実現できることを意識してみたり、インターネット上の情報の取捨選択を指導したりし、ネットリテラシーの向上も実現できるとより望ましい。
B	・時代の変化に対応したルール作りや判断力を育成しようとする姿勢はよいと思う。遅刻しないための行動を自分で判断させることに意義がある。 ・自由の裏には責任があることを教え、歯止めをかけることは必要である。自分で決めたことは守るという意識を持たせたい。 ・多様性への対応がますます大きくなっている。学校にいろいろな意見が寄せられ対応が難しいだろうが、教育機関として適切な対応が必要だ。
A	・学校が小中学校との連携を大事にしているおかげで、小中学生は本校を身近な学校と感じ、交流を楽しみにしている。双方にとってプラスとなる関係を続けてほしい。 ・他機関との連携や外部コンテスト等への参加などはさらに広げていけるとよい。 ・コロナ禍を経て、保護者や地域と関わる場面が増えてきていると感じる。引き続き信頼される魅力のある学校を目指してほしい。 ・中学・高校は悩みの多い時期であり、耳を傾けて話を聞いてくれることは安心感につながる。昨年度末に課題としてあげられていたスクールカウンセラーの周知や交通事故の減少などについて、今年度は一定の成果があった。 ・災害への危機意識を高めるために折に触れて防災教育を行ってほしい。

留意点　（1）重点目標と評価項目については，各学校の現状と課題に基づき，実情に合わせて重点化し，設定する。
（2）学校関係者評価については，年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し，評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは，最終回の学校評価委員会等を開催し，学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。